1971.12.23 明治大学新聞

教職闘争

三木教授
菅原講師

討論集会を開催

野辺教授などは拒否

十二月二十日、三時より五三一教室において、明大教職課程連絡会議主催の対教職課程専任教師との討論集会が開催された。

この日の主要な議題は、前号（再刊第三号）「教職闘争報告レポート」にも明記されている様に、学生側の教育原理（三木教授担当）における単位認定棚粉砕―一律評価要求の動きに対して、教職担当教授や文学部長等から隠けんな形で恫喝がかかって来ているという事実の具体化とそれの的確な把握にあった。しかし、当日の出席者は三木文学部教授と菅原文学部専任講師の二人だけだったため最初予定していた「事実経過」の把握といった問題の核心ふれることは出来なかった。

教職連絡会議は、この討論集会の設定に当り、十四日の段階においては三木教授を通して教職課程専任の教師（現在は五名）と文学部長を呼んで集会を持つように交渉していたが、十五日に至っては教師全員の「合意」により討論集会には出席できない旨を伝えて来たので、個別に参加を呼びかける折衝を開始した。

このことによって、三木教授と菅原講師は、この間の「事実経過」を明らかにする責任性のもとに自主的に討論に参加することとなったが、現行教職課程の主任でもあり、また「事実経過」解明の鍵を握っていると考えられる野辺教授は、教職連絡会議の教庭の折衝の後にも「大勢で話し合っても生産的なものを産み出すことはできない」旨を唯一の理由としてこれを拒否して来た。

結局は二名の教師と、五三一番教室に結集した三〇名余りの学生で討論集会が貫徹された。そこでは主要に単位認定権の持つ様々な問題、それと絡み合わせたところの現在「国語科教育法」（菅原講師担当）で闘かわれている「単位認定棚粉砕―授業延長＝自主講座貫徹」の問題などが討論され、穏やかなムードのうちにも、自己の生き方の問題なども一面のぞかせるような真摯な議事運びとなった。

この討論集会は多くの未解決部分を残しながら教師側の都合により六時すぎに終了した。だが、教職連絡会議では、これからも「事実経過」の追求と明治における教職課程の在りようを、教育そのものの徹底追求を媒介として断固行なっていくことを最後に確認した。